

## 蒲島熊本県知事式辞

【蒲島県知事 式辞】 熊本地震犠牲者の追悼式に当たり、犠牲となられた方々の御霊に対して、熊本県民を代表し、謹んで哀悼の意を表します。平成28年4月14日と16日の、2度にわたる震度7の激震は、私たちのふるさと、熊本の姿を一変させました。倒壊した建物、崩れ落ちた阿蘇大橋、傷ついた熊本城など、次々と映し出される光景に、私たちは言葉を失いました。強い余震が続く中、自衛隊や消防、警察による懸命の救助活動が続けられ、1700名を超える命が救われました。しかし、私たちの願いもむなしく、犠牲となられた方々は、災害関連死を含め、225名に及びます。お一人お一人に愛する家族があり、夢があり、幸せな暮らしがありました。どんなに月日が流れても、最愛の家族を突然失われたご遺族の深い悲しみは、癒えることはありません。改めて、心からお悔やみを申し上げます。先日、益城町の仮設住宅で、被災された方の孤独死が発生いたしました。本当に残念でなりません。今後は被災された方々が孤立しないよう、行政、自治会、民生委員、ボランティアなど地域全体で対応していきたいと思えます。「熊本県には決して大きな地震は来ない」そんな過信が、私の中にあっただのではないか。地震の起こったあの日から今に至るまで、自らに問いかけない日はありません。県民の生命、財産を守る知事として、亡くなられた方々の遺志を受け継ぎ、遺されたご家族をこれからも守り続けていくため、災害に対する万全の備えを築いて参ります。このたびの地震においては、発生直後から、国や全国の自治体、関係者の皆様による力強い御支援をいただきました。御支援いただいた皆様に、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。今、熊本は、全国から寄せられた支援の輪に支えられ、復興に向けて、着実に歩みを進めています。私は、訪れた仮設住宅で、被災された方々がお互いに励ましあい、一歩一歩、生活再建を進めておられる姿に、胸を打たれました。また、代々引き継いできた田畑が被災し、それでもなお、自然と向き合い、黙々と耕し続ける農家の皆様の姿に、復興する熊本の姿を重ねました。復旧・復興の先頭に立ち、県民の皆様を励ますつもりでいた私自身が、被災された方々から励まされ、勇気をいただいています。今回の地震では、県民の約1割、18万人を超える方々が避難先で肩を寄せ合い、過ごされました。そのような中、子ども達が周りの人々を思い、行動する姿が、私の心に残っています。トイレを使われた高齢者の手を洗ってあげるため、水が入ったヤカンを持って待っている子ども達、食事の配膳や物奇の仕分けを率先して行う子ども達、多くの避難所で大人に負けない子ども達の活躍がありました。「みんなのために、自分に出来ることは何か」、子ども達は自らに問いかけ、行動したのです。未来を担う、この子ども達のためにも、安心して暮らすことができ、夢と誇りにあふれる熊本を必ずや創り上げて参ります。そして、創造的復興を成し遂げた「ふるさと熊本」を、次の世代に引き継いでいくことを、あらためてお誓い申し上げます。最後に、皆様の御支援に対する感謝を深く胸に刻み、犠牲となられた方々のご冥福と、一日も早い熊本の復興を願い、追悼の言葉といたします。 熊本県知事 蒲島郁夫